夕刊 磐城新聞
一月三十日發行
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

三

一、手、指、腕臂などは餘り堅くならぬ樣に自然に任せて附かず離れずと云ふ工合に保つこと

二、珠は皆頭で輕く彈くこと

三、拇指と食指とを以て迅速に計算の出來る樣に習慣を附けること

四、拇指は散珠（梁の下の珠）を入れる場合に使ふこと、食指は主として五珠の入れ拂ひに又は散珠を拂ふ場合に使ふこと

例へば六などゝいふ數を置く場合食指を五タマに當て拇指を散珠に當てゝ二つの指で梁の上下の珠を同時に置くこと

又十五と云ふ場合も十の數を拇指で五を食指で同時に置くこと

速算

速算の行ふのには補數を覺ゆることに深く意を用ゆる樣にすること

珠算に於ては五、又は十百、千、萬、などと云ふ數は唯一つの珠で或る位置に現はすことになつて居る

一と四、二と三、三と二四と一

以上は五に對して互に補數をなして居る

一と九、二と八、三と七四と六、五と五、六と四七と三、八と二、九と一

以上は十に對して互に補數をなして居る

右に列記した五に對する及び十に對する補數を確かに呑み込んでおくことが肝要である

補數さへ十分記憶すれば計算も早く出來るから敢て（九に一足す十）などと加法九々や（二引く八殘る）などと減法九々を用ふる必要ない

加減法

加法（寄せ算）とは二つ以上の數を寄せ集めて一つの數とする計算のことである其の結果を和と云ふ

一、五珠の分解を要せざるもの

1+1=2　2+1=3　3+1=4　5+1=9　5+2=7　6+1=7　7+1=8　7+2=9　5+4=9

二、五珠に關係する運算法

加法の初期に於ては大いに注意を要するは五珠の運用法である

○五珠を入れて散タマ一を拂ふ場合

1+4=5　2+4=6　3+4=7　4+4=8

○五タマを入れて散タマ二を拂ふ場合

2+3=5　3+3=6　4+3=7

○五タマを入れて散タマ三を拂ふ場合

3+2=5　4+2=6

○五タマを入れて散タマ四を拂ふ場合

4+1=5

三、或は常位より五タマに關係する運算法

○五タマを拂つて十位に進む場合

5+5=10　6+5=11　7+5=12　8+5=13　9+5=14

○一を入れ五タマを拂つて十位に進む場合

5+6=11　6+6=12　7+6=13　8+6=14

○二を入れて五タマを拂つて十位に進む場合

5+7=12　6+7=13　7+7=14

○三を入れて五タマを拂つて十位に進む場合

5+8=13　6+8=14

○四を入れ五タマを拂つて十位に進む場合

5+9=14

新年石雞句會（七）

『寒餅』　於秀山居

大まかに欠きて寒餅燒きにけり　磐州子
みんなしてゐる火に燒きぬ寒の餅　同
並べゝく寒餅乾く夜なりけり　同
寒餅の一夜にひゞの深まりし　喜山郎
寒餅面てら　と割いにけり　同
寒餅を切ればこき〳〵鳴りにけり　みのり
寒餅を切る時ひゞの血を噴きぬ　同

次回講談豫告

『浪人長屋』
日岐武志作
月草道子畫
（明三十一日紙上より連載）

嫁と姑（十六）

女子勞務者講習會に於て
古河入事係長 前松佐嘉述

『其れは或る家に目の見えない年老いた爺さんがあつて息子の嫁は絶ねず之を虐待して居りました、時に爺さんは手がふるへた爲に過つて大切な皿を板の上に落して毀して了ひました。嫁は爺さんの行爲を大そう怒つて檻の樣な物に入れて犬猫同樣に扱ふたのであります、夫婦は別に惡いとも感じては居りませんでした、が、或る日の事子供が庭で方々から木切れを拾ひ集めて小さな檻を拵へてゐるので之れを見た母親は何氣なく、其れは何にするのだと聞けば『僕が大きくなつたらお父さんとお母さんとを此の檻の中に入れてやるのだ』と申したのであります此親はこの時自分が老父に對してなした行爲の惡しき事を反省し、且つ因果應報の恐るべき事を始めて悟つて、そこで早速爺さんの前に行つてお詫をなし以後は一切爺さんを粗末にしなかつたと云ふ事であります

十一、姑を感化せし實例

德川時代に或る士族に姑と頗る仲の惡い嫁があつて何とかして姑を亡くせうと云ふ恐しい考へを起しかつて懇意にして居た醫師の許に行き此の大それた相談をしたのであつた、醫師は一時非常に驚いたが思慮深い賢明の人でありましたから或る策略を以てこの嫁の心を改善してやらうと決心したのであつた、其處で表面上大いに嫁に同情する樣に裝ひ『事情を聞いて見ると同情の外はない、嘸ぞ困る事であらう、御身の考へは無理からぬ事である、されば私はお身に毒藥を與へるからこれを母の氣づかぬ樣進めるがよい、然し急に藥が利いては人目、立つて御身のために宜しくない、よつて徐々と藥が利いて自然に死ぬる樣に調劑して置から、だから毎日一度づゝ藥を食物の中に入れ、いとも親切らしく進めるがよいさすれば遲くも三ケ月の中に利目が現はれるに相違ない。尤も此の間に惡いたくらみを覺られては御身は勿論の事拙者も非常に迷惑するから、もう僅かの壽命だと思ひ飽くまで孝養を盡さねばならぬ』と懇々諭すのであつた

消息

新女性雜誌 婦人と藝術

近く創刊さる

近代女性の唯一の藝術研究並に修養機關として今般東京の近代藝術協會內婦人と藝術社から創刊される『婦人と藝術』は中央文壇一流諸大家の珠玉の作品を始め全國新人閨秀の作品を推薦掲載する由で目下創刊號の原稿及び會員を全國から募集中である

因みに同社々長內村俊一氏は西條八十氏、野口雨情氏とともに詩人として令名高く、近くビクターレコードに吹込まれる『松崎音頭』及び『松崎小唄』は同氏の新作として非常な人氣を呼んでゐる

又同社編輯次長鈴木正夫氏は內村俊一氏の高弟にして新進作家として前途を囑望されて居るが同氏は本縣原ノ町の出身で、磐中第三十二回卒業生である。同氏は近く內村氏と共に來縣するが、本町にも立寄り郷土藝術の紹介につとめる由である

社會の今日

1月31日

△足利尊氏攝津に走る（延元元）△暴徒西郷隆盛を擁して亂を起す（明治一〇）△英政府上海の日支兩軍の間に中立地帶設置案を提唱す（昭和七）

○

早梅や飛び飛び缺けて石だゝみ　呂公

ながゝと雪にこもれば乾きたる、ま土踏みたくなりにけるかも　結城哀草花

講談 幕末神風組

(110) 土生太郎作 高根秀浩畫

神風組（十一）

それから、二三日經つてからであつた

御木本は、左肩にうけた彈丸創を癒やすべく、專心養生に努めてゐた

彼は、何う考へても、殘念でならなかつたのだ、あの時、此の肩の傷を、淺野に負はせる事が出來たならそれは何度考へても同じ事であつたが、考へれば考へる程無念がこみあげて來た

それにあれからといふもの、淺野隼人、近藤勇、土方歲三等の猛者連の橫暴はとみに激しさを加へて來た、あつちでもこつちでも、勤王黨は屠られて行つた

それは火をかけられた野牛にも增す勢ひである

御木本は床の中にあつてそれ等の噂を傳へ聞いて、只焦ら立つばかりであつた

邸內には、御木本ばかりではなかつた。左幕黨のために斬られた手負ひのものが、幾人も幾人も枕を並べて寢てゐた

その外、舊幕臣の居られるもの數知れず、淺野、近藤等の膺懲の刄は、大江戶を西から東へ、北から南へ縱橫に暴れ廻つてゐた

味方に取り、不利な話ばかりが御木本の耳を毎日のやうに搔き亂した

『己レッ！淺野奴！』

だが、どんなに力んで見ても、所謂それは不能なことだつた

『御前たうとう、淺野の奴は近藤勇と組んで、極めて合理的な殺戮戰を開始しやした』

藤七は、佐幕黨の情報をもらして來て語つた

が、それは、八丁堀の土手で淺野を擊ち損じてから恰度五回目の晝近き頃であつた

『御前、大變な事をやりやがりやしたよッ』

『何が……？』

『何がつて、榎本の奴あたうとう軍艦で乘り出しやしたよ』

『何だと……』

御木本は思はず床の上に起き直る

『昨夜、夜中に、開陽、回天以下八艘を悠々引きつれて……』

『己れッ！』

『御前、俺ア殘念だア』

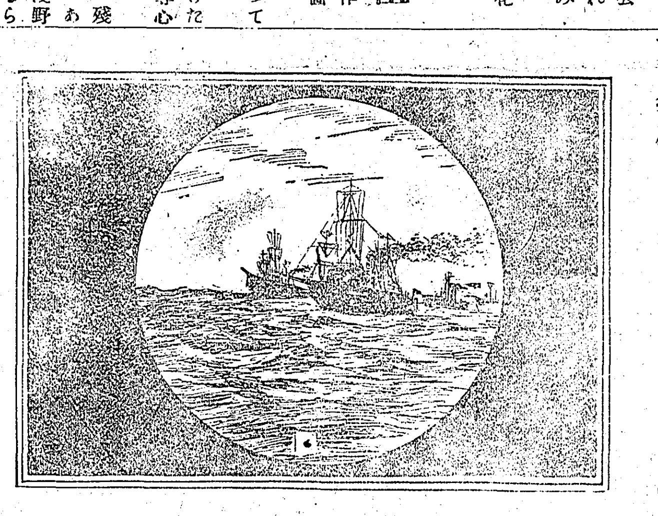
『身共とて同感ぢや』

がつくり、御木本の首がたれた

『あの時、彈が外れなかつたら御前に此の口惜しさを味はゝせずに濟んだのに』

藤七は流石に聲をしぼつて涙を流した。御木本がたほれなかつたら、よし、あの時淺野をたほし得ずとも榎本等の軍艦占領を是れ程易々とはさせまいものを、と後悔が、一層彼等の心を悲慘に搔きむしつた

『しかし、皆天運ぢや』



そして御木本は藤七の手を握り暗然と涙に暮れた

斯くて波瀾層重を極めた榎本、淺野派對神風組の猛烈激烈！なる闘爭も、榎本の軍艦奪取、品川出帆に依つて一段落を告げた

北へ北へ――

榎本の總督する艦隊は一路、函館さして進航して行つた

而して途次、未曾有の颶風に遇ひ、難航又難航、乘員の脫出等に逢ひ乍らも北上、鹽釜港に於て榎本が計らずも海賊船の女船長となつてゐた染香に逢ふなどといふ事は自づと此の物語りの外に出る事なれば、これには後日又稿を改めて讀者にまみゆる事とし一先づ筆を擱くことにする

が、只一言、本篇に終始活躍拔群の腕の冴ゑを見せた劍豪淺野隼人は、榎本に續いて開陽艦に乘り組む手筈になつてゐたのであるが夜來近藤勇と共に深川邊りの浪人狩りに出てゐたゝめおくれて乘船し得なかつた事を附記して置く

最後に拙劣なる描寫にもかゝはらず最後まで御熱讀下された愛讀者諸賢に作者は衷心より感謝して止みません

（完）

廣告

破魔弓こ羽子板を陳列致しました。
奉祝 皇太子殿下御誕生用提灯各種
スガノヤ提灯店
平町四丁目・電話九五番

今流行の
福島音頭
東京音頭
昭和音頭
其他流行唄各種
金光堂時計店
電話一九五番

小兒科專門
附內科
志賀醫院
平白銀町十番地（前伏見町長跡）
電話（呼出）六五〇番

貸切ハ御用命ノ
ゼヒ三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は 好間…合戶…澤渡方面行

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一一番
本店 水戶線下館驛前（電話五五番）
營業種目
輕石油、揮發油、モビール油、重油、マシン油、機械油類、胡摩油、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三、八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

外科全般
內科 小兒科
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科
（入院應需）

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

眼科專門
賀澤眼科
平町南町
電話七二番
診療時間 每日 自午前八時 午後九時迄

産科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

吸入用酸素 純度99%
モノサシ マス ハカリ
体温器 寒暖計
◎秤ノ取次・縮・糸・修理致シマス
關內藥局
電話四〇番

山なす大浪が襲來し 出漁と工事に大手違ひ
石城七濱の今日此の頃

久の濱、四倉地方に大損害をあたへた此程の地震による津浪は發生當時は大した被害もなかつたが漸次豊間、江名、小濱の各海岸に及び毎日最高一丈餘尺の激浪を生じ出漁出來ず各築港工事は目下潜水を要する陸堀並に締切り作業に差しかかつて居る爲工事を進め兼ね已むなく少數な人夫で海岸工事を行つて居る狀態で何れも手古摺つて居ると

東北でも有數な 湯本町營大グラウンド
愈々九分通り竣功

湯本町では同町失業者六百名の救濟事業として既報の如く嚴に町營グラウンド創設を企劃し總工費一萬八千六十三圓（地元負擔一萬一千圓）で昨年十月末着手舊臘來東部水田の埋め立て中であつたが愈々此程長さ百二十五米、巾八十米。約三千二十三坪の磐中より遙かに廣い郡下は勿論東北でも有數の大グラウンドが九分通り竣工し此所を舞臺として健棒好打の目ざましい場面が展開さるる日の近きに在るを期待されてゐる

磐女記念植樹 磐女では職員生徒の手により皇太子殿下御降誕記念植樹を行ふべく目下準備中であると

愛婦事業費寄附
總額二千圓の提供に 畑山知事夫人感激

平町愛國婦人會員で過般來福島支部救護事業費としての寄附は昨日迄總額二千五十圓二十八名に達し內譯左の如く昨廿九日來平の畑山知事夫人も感激して居たと

（五十圓）諸橋寄子、增田靜枝、高階フミ、淸水ユキ、安齋米子、原八重子、井坂サイ、石山京、關坂コウ、酒井とみ、江口コウ子、大須賀ウタ、馬目イチ、有馬秀子、阿部ト、若松排子、吉田タマ（百圓）關內品、藤居ヤス（百五十圓）鷹崎千代、猪狩ワカ、山崎キク

新玉川村長
宮內元校長說有力

玉川村後任村長問題は現助役昇格運動から紛糾を極め容易に解決を見ないで結局來月一日午前九時から村會を招集決定する事になつた町他村からの移入說も擡頭して居るが政友派多數を占める同村會だけに元小學校長であつた宮內久技氏を推薦する形勢にあり相當注目されてゐる

賣米代で 製繩器購入
平窪小學校新設備

自給自足をモットーに各施設をなして居る平窪小學校では校田二段歩から昨秋末は井上校長を初め全校生徒が村內の拾ひ落穗の賣上げで從來設備なく不便を感じて居た製繩器を購入した

。。。。消防組頭會　平署管內消防組頭會は今卅日午前十時から平署會議室に開き來月開かれる組頭總會の打合せをなした

舊歲末の切迫に 要救極貧者調査
例に依り餅代を惠む

平町役場では舊正月も迫つて來たので例により貧困者の救濟をなすべく目下調査中であるが範圍は新正月の百五戶四百十五名に百三十六圓七十錢と大差なかるべく近く共濟委員區長等を招き打合せする事になつたと

幼弟を背負ふて 青年訓練に出席
草野村に非常時美談

現下の非常時に咲いた青訓美談—福島聯隊區查閱官藤井中佐は此程草野小學校で同村の青訓查閱を行つて居た處最後列に幼い男の子を背負つて不自由ながらも一同と相伍して教練を受けて居る一青訓生あるを發見調べた結果四年生藤崎景行君（三〇）で事情を聽いて見ると老父吉之助（五七）さんが昨年來病床にあり剩へ七十六才の祖父に七十五才の祖母を初め弟妹三人もあり、母は舊臘中生後六ケ月の幼な子を遺して死亡した

と云ふ非常に哀れむべき境遇にありながらも燃ゆる樣な愛國心から此の儘平凡な農夫たるに忍びず貧困の爲發育料の意の如くならぬ處から野良稼ぎは勿論の事幼兒を背負ひながらも一週三回の教練を受けて居り、成績も非常によいので全村民から此の感心な行爲を賞讃されて居る

職工出身地
平署管內總數千餘名

平署最近の調査による管內に働く鐵工外十五業の職工は總數千百四十八名で主なる方部左の如く少いのでは東京、富山、石川、郡山、南會津の各一名であると

茨城五四、新潟八一、石城男四六〇、女二六〇、相馬男六八、女一三、双葉五五

町有地特賣內定
來町會で正式議決

揉みに揉んだ平町田町マーケット敷地問題も辯護士等の斡旋で立退きに決定愈々來月二日町會を招集酒井氏の知己勿來町安島久氏に特賣決定する事になつた旨昨報の如くであるが尙左記二件を協議すると

寄附採納の件、平町立傳染病院他町村患者取扱規程訂正の件

。。。。磐中寒稽古納會　今三十日午前九時から柔道部は講堂で、劍道部は下級生控室で對級對學年試合を行ひ午後平商、平署等代表との對抗試合あり午後三時閉會した

。。。。櫻ケ丘同窓會　磐女同窓會は今三十日午後一時から開き種々協議する處あつた

第二女文集刊行

平第二校尋五ノ三組ではこの程濟野兵衛訓導の指導の下に作文の向上を目的として『松ケ岡』の題名等十四、女兒による詩想を收めたものである

一道二府二十七縣から
第二校兒童本籍調べ

平第二校では諸種の參考に資すべく全校兒童一千六百十五名の本籍地を調べたが本籍者五百四十四名、寄留者一千七十一名で府縣別左の如し

福島一、二四六　茨城一〇四　栃木五六　宮城四九　東京二八　新潟二六　山形一四　秋田一一　群馬一〇　千葉九　岩手八　長野七　埼玉六　山梨、岐阜、北海道各五　神奈川、大分、廣島各四　兵庫、青森各二　大阪、奈良、三重、福井、島根、山口、和歌山、德島、福岡、朝鮮各一

。。。。平町學務委員會　今三十日午前十時から町役場會議室に開き九年度豫算その他を協議した

。。。。第二校の研究教授　今三十日午前九時から尋二ノ二組鈴木トク訓導の算術で教材は8の割算

乞食新戰術『贋手んぼ』
其筋に見破られて 懇々不心得を諭さる

昨廿九日午前十一時頃大野村大字藥王寺地內を物乞ひをして居る左手のないルンペンの擧動不審なので同村駐在平塚巡査が取調べた處右は本籍岩手縣膽澤郡小山村字駒込三九五當時住所不定黑澤市治（三九）で何不自由なき手足を持ち乍ら左手をわざと腕に縛りつけ手んぼを裝つて不具を賣り物に各地を貰ひ歩いて居た事が判り嚴重なる其の不心得を諭して放還した

物騷な世相三重奏（四倉通信）

強要し歩いては 酒浸りの怪漢
四倉署に留置さる

一昨廿八日四倉町本町地內の各戶を訪れ金品を強要し廻つて居る男あるを四倉署員が同行取調べた處此奴は當時住所不定靜岡縣磐岡郡小玉町字及川生れ前科三犯紋額金一（二九）で達者な癖に前記手段で酒びたりになつて居たものらしく引續き嚴重取調べ中である

境界を侵す
義弟から他人へ 大野村の山爭ひ

雙葉郡大久村大字小久、強口新之助は去月上旬義弟にあたる大野村大字白宿青木龜之助の所有山林雜木を自己の所有として同村吉田某に賣却した處隣接した石島德長氏の地域を侵したと云ふので紛紜中四倉署の耳に入り目下關係者を取調中であると

高久郵便取扱所開設

高久村郵便取扱所は愈々三月一日より開設することに決定し目下取扱所長の人選中であると

平局員昇格

左記平局員に對し昨二十九日付各頭書の發令あつた

任主事　書記　渡邊善祐
兼主事　同　長橋豐喜
任書記　同補　高橋憲七
任書記補　雇　松浦寅次郎

七十七 銀行の前途
業態頗る安固

七十七銀行の成績に就ては更めて云ふ迄も無く昭和八年後半期の成績は一昨本紙所載の決算報告に徵しても明瞭であるが大體の狀況はます〳〵順調な業態を示しつゝある。それに根本的景氣の動向は別問題とするも

一、かつてのデフレーションによつて受けた打擊はその後のインフレーションにより徐々に排除されつゝある

二、各種低利資金の滲潤國救事業の進行等は放出資金の回收を著しく良化した

三、圓價低落と技術、向上、合理化の徹底等のために輸出增進し一般に產業界は向上の一途をたどりつゝある

四、以上の理由や低金利の徹底等のため公債それ等の手持證券は値上り、不動產價格も漸騰の傾向にある

五、合併工作の完成はます〳〵事業の基礎を強固にして冗費をはぶき、急速に業態の改善向上を促しつゝある

等の理由により、あの恐るべき混亂時期をすら安全に通過して來た常行が今後ます〳〵堅固たる地步を穫得し、その隆々たる前途を約束されてゐることは言までもない。當行の前途まことに洋々たりと言ふべく一般に地方人また當地產業經濟界の核心たる當行の發展向上は即ち當地方產業經濟界そのものゝ組織的、面目的、發展向上の基礎的條件工作として、その發展に協力すべきであらう

匿名の一婦人 手製の雜巾寄附
けさ役場の玄關へ

今卅日早朝平町役場の宿直員が玄關の戶を開けやうとすると手縫ひの雜巾百枚宛三包、五十枚一包の新聞包みに左の樣な手紙が添へてあつたので直に町長の手を經てそれ〳〵配付したが一同此の奇特な行爲を感謝して居る

寸暇を見ての手縫ひもので御座いますが百枚づゝは三小學校に、五十枚は磐城訓盲院に御配付を願ひます　一婦人

星野家盛葬
けふ九品寺で

平信用組合專務理事星野濟吉氏の葬儀は今三十日午後二時五丁目の自宅出棺九品寺に於て執行したが土地の有志として交友關係廣かつた處から會葬多數各方面からの花輪其他供物等で盛葬であつた、多數弔辭中鈴木代議士の分次の如し

弔辭

畏友星野濟吉君溘焉として逝く、今や在りし日の溫容は北邙の雲煙遠く隱れて再た相逢ふべからず哀み曷んぞ禁へん。君資性溫良にして重厚端正、身を修め家を齊へ質實穩健なる典型的實業家として夙に衆望を鍾めたり、爾來拮据經營玲瓏たる君の人格は一段渾成の域に入るや推されて平町會議員となり在ること二期其の間一貫して諸事黎明期の平町治に盡瘁倦むことなく、其の功績永く沒すべからざるものあり、曩に平信用組合專務理事に就任するや未曾有の金融梗塞に當面し、組合をして庶民金庫たるの最大機能を發揮せしめたる等君の經綸と仁俠とは今後倍々衆庶の渴仰措かざりしに方り二豎の爲突如幽界に入る、未だ耳順に達せずして此の事ある吁悲哉然りと雖所謂人生の眞意義は其の長短に非ずして生前の功罪如何に在り、念ふて茲に到れば悲しむべきなきものまた以て瞑すべきなり一辨の香を獻じ恭しく弔す

昭和九年一月三十日
衆議院議員　鈴木長三郎

。。。。敎育會費分賦調査　郡敎育會では分賦金負擔に關して基本調査のため郡下各小學校の全校兒童數職員數及び月額俸給高の調査提出方を依賴した

平町耕作量

平町役場最近の調査による耕作量左の如し

（田）自作三〇〇反、小作七〇一反、計一〇〇一反　畑自作二三八反、小作二九八反、計五三六反（園藝農產物）日本梨二六〇本二、〇八〇貫、四、六圓、生柿三〇〇本、二、一〇〇貫、三一五圓

酌婦稼ぎは嫌です
抱主が吃驚けふ平署へ

飯野村大字吉ケ谷一郎養女渡邊はる（二二）は舊臘十三日前借二百二十五圓で仙臺市定勝寺通り櫻町料理店藏發とく方に酌婦に住み込んだがこれを嫌つて十九日夜家出行衛をくらましたが平町に入り込んだ形跡あるので今卅日抱主から平署に搜查方を願ひ出た

醉漢大暴れ

平町鹽匠町七無職小山親一（三四）は廿八日午後八時頃同町三丁目カフエークロネコ事利根金三郎方で一圓の飲食をなし文句を云つて勘定支拂はぬのみか『乾兒が表に居るんだ』と稱して五圓と酒二升をせしめんと謀つたが拒絕され亂暴してゐるのを平署員に檢束され昨廿九日營業妨害脅喝未遂で送檢された

。。。。疑似チブス發生　平町材木町では此程一時に三名の腸チブスを出したので直に町役場では全町內に石灰水を撒布するやら大消毒を行つたが尙二三名の疑似患者があるので嚴重警戒して居る

。。。。同僚から盜む　豐間村字下町六六生れ平町大町一二鐵工場職工大峯光太郎（三〇）は舊臘上旬平町月見町二一佐藤鐵工場內で作業中棚の上に置いたクローム腕時計（價格七圓）を窃取これを二圓五十錢で入質消費した事發覺昨廿九日平署に檢擧さる

田子英吉翁

石城郡三坂澤渡組合村長田子英吉氏は去る十七日より感冒の氣味で自宅で靜養中廿八日午前六時永眠した享年八十三歲翁は縣議田子健吉氏の嚴父で明治廿二年村制實施以來今日まで四十六年間村長の職にあり全國自治界の長老で幾度か功勞者として表彰されてゐる

三十一日
日出 六、四三　月出後 五、四〇
日沒 五、〇七　月沒前 六、五六
滿潮 前六、五〇 後五、三〇　干潮 前 後 〇、〇五
滿月前 一、三一　月食前 一、〇一

舊十二月十七日　水曜　壬寅　佛滅　除　參宿　新一月三十一日

高島易斷總本部　東京市本鄉區湯島四丁目五番地　斷判定廳霜　神　鑑

▲一白の人　功名榮譽思ひの儘なる吉日躍出努力すべし▲二黑の人　去就を明らかにして浮腰とならぬがよろし▲三碧の人　進路を誤り易き日なれば計畫を控ゆるが吉▲四綠の人　氣運に障りなく平康を保つ定業は撮ふべし▲五黃の人　衰運の影響は一身の自由を欠き儘ならぬ日▲六白の人　陰暗の氣に封ぜられ萬事捗り難き日病注意▲七赤の人　人の爲めに謀られて地位を失ふ交際に注意▲八白の人　紛爭を起し苦痛を長く遺すべき日辯口注意▲九紫の人　定業に出精して安全を保つのみ病盜難注意

廣告

刀劍研磨　白鞘調製　刀劍柄卷　刀劍買入
研師　翠光齋　主　船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

磐城名物　靈峰羊羹（みやまようかん）
小川郷驛前　平屋賣店

高久病院
院長　高久忠
平町田町電五一三

吉田眼科病院

貸切車御用の際は是非電話六四〇番尼子タクシーへ御用命を御願申ます。
新車も購入致しました。
平町二丁目
尼子自動車部
電話六四〇番

日本に唯一つ
魂の這入つた
東京工場聯盟の自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。橋際

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切 叮寧……料金は極めて低廉です
姙產婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話〔呼〕六五二）
上原家政婦會
會主 產婆　上原通子